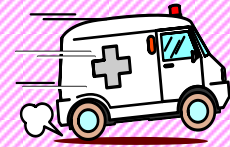


# 心肺蘇生法を学習して

射水市立新湊中学校 2 学年



射水市医師会の医師や看護師、新湊消防署の救急救命士や女性消防団員の方々を講師に迎え、心肺蘇生法実技講習会を行いました。命の大切さや救急車が来るまでの応急手当の手順を、実習人形や AED トレーナーを使って学びました。実施後の感想を紹介します。

今日、初めて心肺蘇生法と AED の実習を行って、人工呼吸や心臓マッサージを行うのは大変だということを実感しました。でも、私たちにも命を助けることができるということが分かったし、心肺蘇生を行ったり、AED を使ったりすることで少しでも救急の方の助けになることも分かりました。もし、身近な人が倒れた場合には、今日学んだことを生かしたいと思います。

(A 組)



救急の場では、声のかけ方が大事だと分かりました。「誰か来て！」だと、他人任せになることがあるので、救急車を呼んでほしいときや、AED を持って来てほしいときは「あなた」としっかり指名して、いざというときに大切な命を助けられるようにしたいです。

(A 組)



心肺蘇生のやり方は、父や祖母にたくさん教えられて分かったつもりでいましたが、実際にやるのはやっぱり難しいと思いました。胸骨圧迫の力の入れ方や人工呼吸のやり方も理由まで分かっていたけど、いざ人形に向かうとためらいがありました。人形でためらいがあるということは、本当に人が倒れたときにしっかり行動できるか不安になりました。何度も訓練することが大事だなと思いました。

(A 組)

今日の心肺蘇生法と AED 講習会に参加して、とてもいい体験ができました。分かりやすく教えていただいたので、大きな声を出して胸骨圧迫をしたり、人工呼吸をしたりすることができました。今日学んだことは、「意識が戻るまでがんばる」です。もし、人が倒れていて意識がないようであれば、しっかりやりたいと思います。また、普段から AED のある場所を把握して、実際の際に役立てるようにしたいと思いました。

(B 組)



いざそういうことが起こると、焦ってパニックになってしまうということが分かりました。一分一秒を争うときも、落ち着いて冷静に対処しなければいけないと思いました。最も印象に残った言葉は「肋骨よりも命を大切にしなければいけない」という言葉です。命を助けるため、迷ってはダメだと分かりました。

(B 組)

私は今日の講習会で2つのことを学びました。一つ目は人を助ける大変さです。一人の人を助けるために、多くの人が必要だったからです。二つ目は、より早く行動しなければいけないということです。少しでも遅かったら、その人の命は助からないからです。私は2つのことをちゃんと覚えていきたいと思います。また、今日学んだことを生かして、もし誰かが倒れていたら助けてあげたいです。(B組)



人形を使つての胸骨圧迫はすごく難しかったです。先生にお聞きすると、人形より人の場合はもっと難しいとおっしゃっていました。いつ、どこで、人を助けないといけない場面があるか誰もわかりません。自分がそういう場面に遭ったとき、どういふ手順で処置をすればよいか分かったので、今日習ったことを生かしていこうと思います。テキストもいただいたので、しっかり読んで、知識を増やして生活していきたいです。(C組)



今日、心肺蘇生法の体験を通してたくさんの方を教えていただきました。もし本当に人が倒れていたら、パニック状態になって何もできないと思いました。でも、教えていただいたことを思い出して、勇気をもってやってみたいです。また、海で人が溺れていたら、自分は助けずに大人を呼んだり、119番に通報したりするという事も学びました。この講習会に参加できてよかったと思いました。(C組)



心臓マッサージの実習では、今日30回やっただけでも、とても力を使ったのに、実際に起こったときには救急車が来るまで6分あると聞いて、本当に大変だなと思いました。倒れている人に、「大丈夫ですか？」と聞くとき、恥ずかしくて大きな声で言えなかったから、人に伝わる声で活動できるようにしたいです。AEDの使い方も教わる事ができて、良い体験ができたと思いました。(C組)

今日の心肺蘇生の講習で人を助けることの大切さを改めて学ぶことができ、また、大変さも分かりました。胸骨圧迫や人工呼吸では、圧迫する力、速さ、場所をしっかりと理解したり、顎を上げて気道の確保をしたり、鼻をつまむなどの手順が難しかったけど、本当に起こった場合のシミュレーションができたので、よかったと思います。実習することは大事だと思うので、また機会があれば積極的に参加したいです。(C組)

